

第7回ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会

プログラム

平成27年12月5日(土)

昭和女子大学

主催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会

共催：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム

昭和女子大学

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

後援：外務省、環境省、東京都教育委員会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、
全国高等学校長協会、全国国立幼稚園・こども園長会、全国国立大学附属学校連盟、
国立大学協会、日本教育大学協会、日本私立大学協会、日本私立大学連盟、
日本私立中学高等学校連合会、日本私立小学校連合会、全日本私立幼稚園連合会、
日本PTA全国協議会、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)、
株式会社教育新聞社

協力：MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社、
株式会社オリエンタルランド、カシオ計算機株式会社、D I C株式会社、
ネスレ日本株式会社、株式会社ユニクロ

目 次

◆開催に寄せて

文部科学大臣 馳 浩	6
日本ユネスコ国内委員会会長 安西 祐一郎	7
学校法人昭和女子大学理事長/昭和女子大学学長 坂東 眞理子	8

◆大会日程	9
-------	---

◆会場案内	10
-------	----

◆特別対談「グローバル人材を育てる」	14
--------------------	----

◆全体会Ⅰ

今後のESD推進に向けて	15
ユネスコ主催気候変動国際セミナー参加校の紹介・課題共有	16

◆テーマ別交流研修会

●「ホールスクールアプローチ、活動の継続性、校内連携」[幼小][中高]	18
●「地域連携、大学・企業・NPO・教委（行政）との連携」[幼小][中高]	19
●「教科横断、教科とのリンク」[幼小][中高]	20
●「ユネスコスクールの学校経営、管理職のリーダーシップ、校内の環境整備」[幼小][中高]	21
●「学校間交流」	22
●「ESDの評価」	22
●「学習指導要領とESD（思考・判断・表現力の育成、体験活動、学習意欲の育成、 活用型・探究型学習など）」[幼小][中高]	23

◆ランチョンセッション（協力企業による社会貢献活動の紹介）	24
-------------------------------	----

◆ユネスコスクール一覧	27
-------------	----

◆ESD推進のためのユネスコスクール宣言	35
----------------------	----

◆第6回ESD大賞 受賞校一覧	38
-----------------	----

◆協力企業・展示団体一覧

第7回ユネスコスクール全国大会／持続可能な開発のための教育（ESD）研究大会開催に寄せて



文部科学大臣 馳 浩

第7回ユネスコスクール全国大会の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

我が国で昨年開催された「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」において、国連ESDの10年を締めくくる会合として、ESDの後継プログラムとなるESDグローバル・アクション・プログラム（GAP）の開始が公式に発表されたことは記憶に新しいと存じます。今回の全国大会は、GAP開始以降初めてのユネスコスクール全国大会となります。

我が国においてユネスコスクールはESDの推進拠点と位置付けられ、教科横断的・総合的な取組が行われているとともに、ESDを通じて、子供たちの学習に対する興味・関心の向上や、意識の変容が見られるなど、様々な効果が報告されています。

今回の全国大会は、「未来をひらくESD－さらなるつながりと広がり求めて」のテーマの下、これまで以上に参加型となるよう工夫し、より有意義なものとなるようにプログラムが組まれております。全国各地でESDを実践されている方々が一堂に会し、議論を進める中で、各々の課題や認識を共有し、理解を深める契機となり、御参加の皆様それぞれの活動の場へフィードバックされ、持続可能な未来をひらくことを期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり御尽力されました関係の方々に深く感謝申し上げるとともに、引き続き、本日御参加の皆様にはESDの推進に邁進していただくことをお願い申し上げます。私の御挨拶といたします。



日本ユネスコ国内委員会会長 安西 祐一郎

「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が岡山市及び愛知県名古屋市で開催されてから1年がたちました。「国連持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」は我が国が提案し、2005年から始まり、昨年最終年を迎えましたが、このESDの後継プログラムとして「グローバル・アクション・プログラム」が開始され、本年はESDの推進に向けた新たなスタートの年となりました。我が国においては、これまでの10年の経験を踏まえ、ESDの更なる浸透、実践力の向上や国際的なESDの取組の推進が期待されております。

第7回目を迎えた今年の「ユネスコスクール全国大会」は、新たな展開へと入ったESDについて、未来をひらくためのつながりをテーマとして、ESDに関する様々な取組の共有を図り、そして参加型の大会となるようプログラムが組まれております。

我が国では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け、ESDの普及・促進に取り組み、現在、その数は939校まで増加しました。本年8月に日本ユネスコ国内委員会教育小委員会ESD特別分科会でまとめた「持続可能な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて」では「国連ESDの10年」の成果を振り返り、それぞれの分野の課題を整理した上で、今後の推進方策について示しております。この中でESDは、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）を実践するものとして効果的であると考えられることから、全ての学校でのESDの取組の充実を目指すとともに、ユネスコスクールをESDの実践効果を高める取組を先導するモデル校と位置付けられております。ユネスコスクールに求められる取組として、他の学校や大学、若者、NGO／NPO、企業等地域の関係者との連携を強化することも必要です。具体的には、ユネスコスクール同士のネットワークを活用し、国内外の交流に努めることに加え、ユネスコスクール以外の学校や、大学、若者、NGO／NPO、企業等の地域の関係者との連携を強化し、社会全体として持続可能な社会の構築や、その担い手作りに取り組んでいくことが、ユネスコスクールの活動の幅を広げ、それぞれのESDの実践力や、ひいては活動自体の持続性を高めることにつながります。

本大会がESDの更なる推進に向けて、より一層のESDの広がりや、取組の充実、更には未来へとつながる機会となることを期待します。

最後に、本大会の開催に御尽力された関係の皆様へ深く敬意を表しますとともに、本大会が参加者の皆様にとって、実りの多きものとなりますよう祈念し、御挨拶とさせていただきます。



学校法人昭和女子大学 理事長 坂東 眞理子
昭和女子大学 学長

第7回ユネスコスクール全国大会に開催にあたり、会場校大学の学長・理事長として皆様のご来場を心より歓迎いたします。

2015年現在、ユネスコスクールは世界182か国の国と地域に広がり、その数は10,422校に上ります。中でも日本は加盟校数が939校で1か国当たりとしては世界最大規模を誇っています。教育によって子供たちが知識を身につけるだけでなく理解力・行動力を身につけることが求められている今、ユネスコスクールのあり方は注目を集めており、それぞれの学校が独自の工夫をしながら活発な取り組みを行っています。

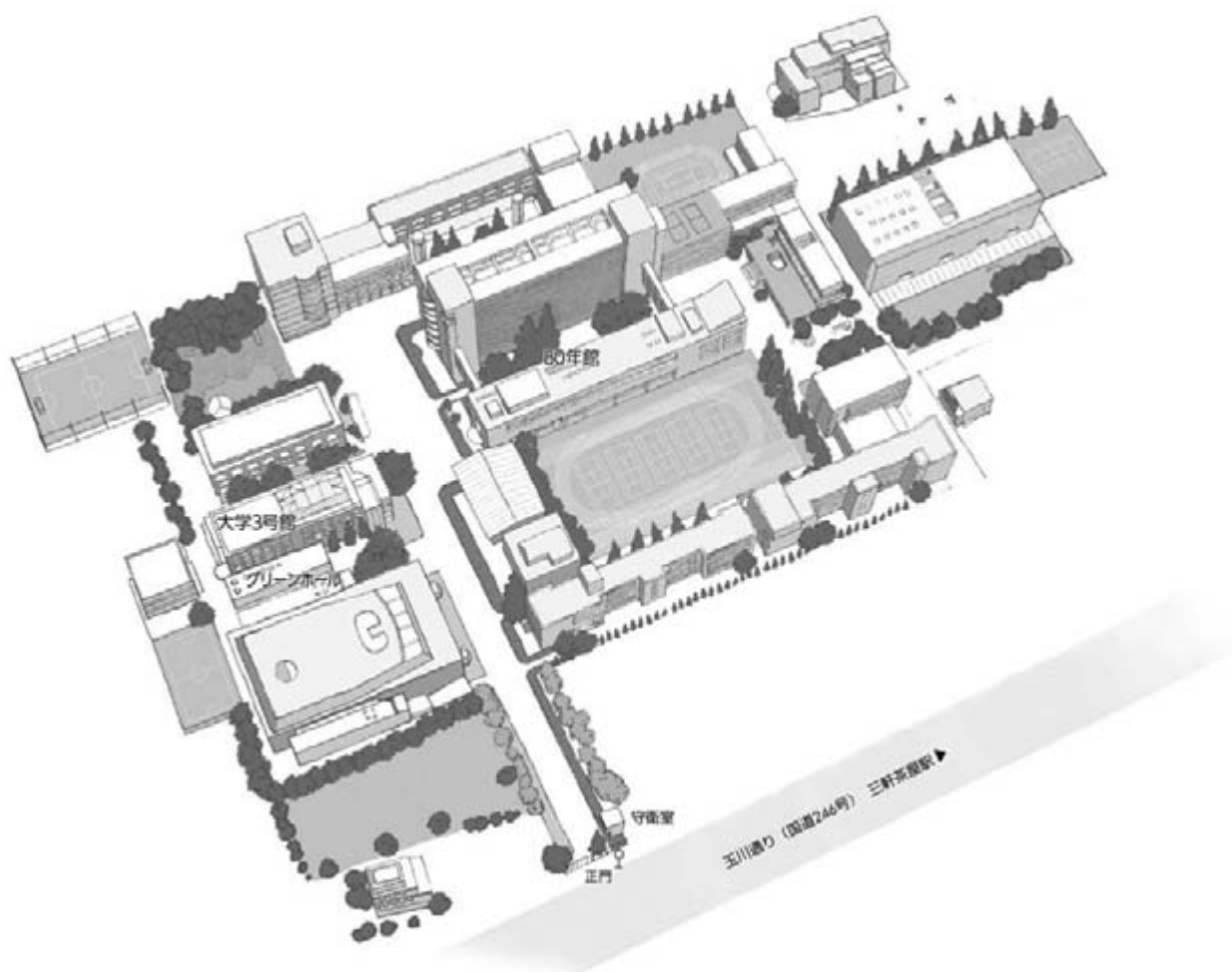
本学園では附属の昭和中学校・高等学校が2012年にユネスコスクールに認定されました。中学校・高等学校ともに環境問題に全校をあげて取り組んでおり、総ての教科においてカリキュラムへの取り入れと生徒会を中心とした3R運動（reduce/reuse/recycle）を行い、省資源について考える力を養っています。また2012年にグローバル人材育成推進事業に採択された昭和女子大学と連携し中学校・高等学校でも異文化理解のための海外研修を世界7か国で行っています。高校生が行うカンボディアやタイでのボランティア活動には、大学のそれぞれを専門領域としている教員が指導にあたっています。2014年には第4回ESD国際交流プログラムの代表の一人が選出されドイツ・フランスのユネスコスクールを訪問し、パリのユネスコ本部において本校のESD活動の紹介をいたしました。このようにユネスコスクールとしての活動の実績を積んでいる本学園は大学とも連携しグローバルに活躍できる人材の育成に努めています。

最後になりましたが、昭和女子大学にてユネスコスクール全国大会を開催する機会を与えてくださいました、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会の皆様に感謝申し上げますとともに、共催団体としてご協力いただいているNPO法人日本持続発展教育推進フォーラム、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、並びに御後援いただきました皆様方にこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

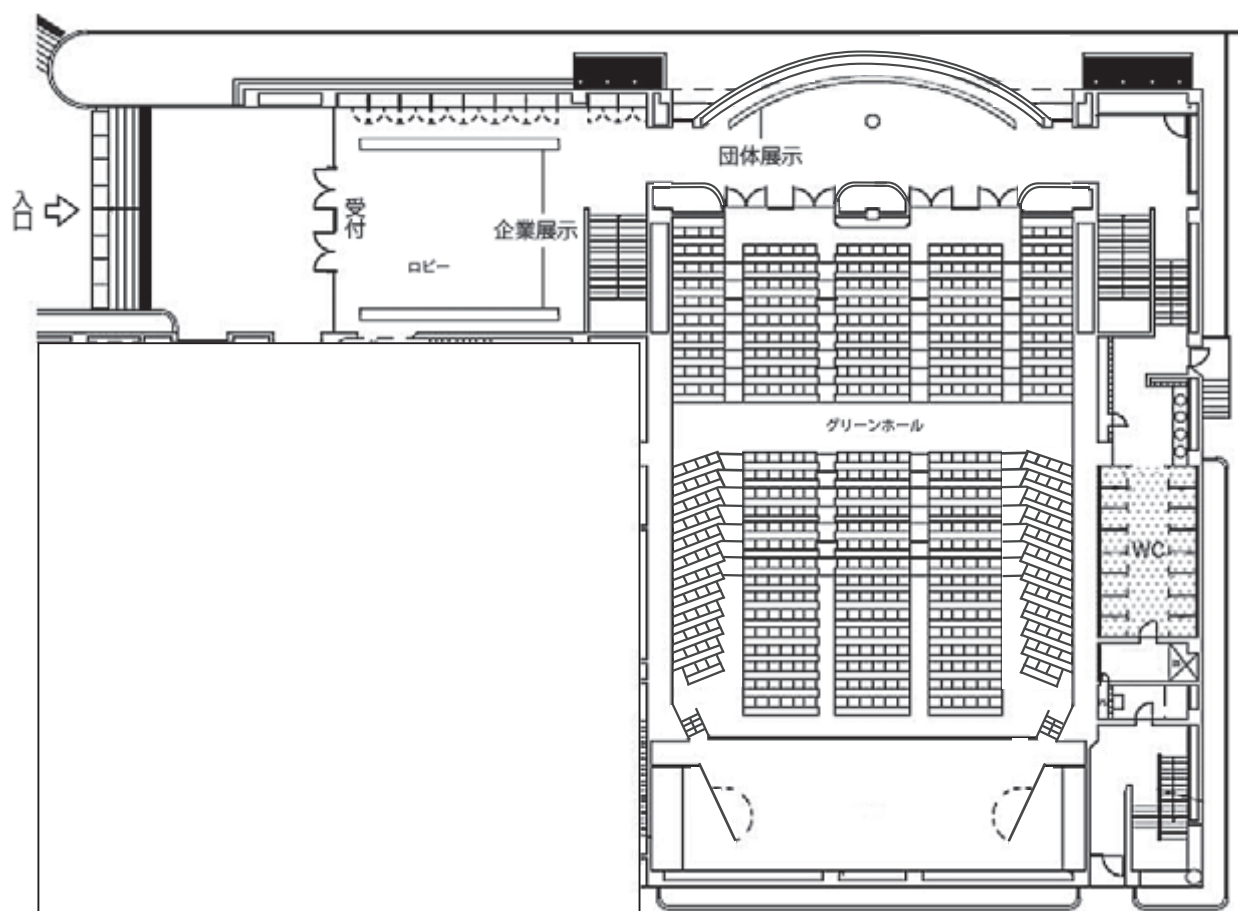
大会日程

時間	プログラム	会場
09:15 ～	受付 ※ESD協力企業や関連団体による展示ブースを設けております	グリーンホール ロビー
09:45 ～ 10:05	開会式 挨拶 馳 浩（文部科学大臣） 安西 祐一郎（日本ユネスコ国内委員会会長） 坂東 眞理子（学校法人昭和女子大学理事長／昭和女子大学学長）	グリーンホール
10:05 ～ 11:05	特別対談「グローバル人材を育てる」 安西 祐一郎（日本ユネスコ国内委員会会長） 坂東 眞理子（学校法人昭和女子大学理事長／昭和女子大学学長） コーディネーター：市瀬 智紀 （宮城教育大学附属国際理解教育研究センター教授）	グリーンホール
11:05 ～ 12:15	全体会Ⅰ ◆今後のESD推進に向けて ◆ユネスコ主催ユネスコスクール気候変動国際セミナー参加校の紹介・課題共有	グリーンホール
<<移動・休憩 15分>>		
12:30 ～ 13:30	ランチョンセッション （協力企業による社会貢献活動の紹介） ※昼食をご用意いたします	80年館 5階、6階
<<移動・休憩 15分>>		
13:45 ～ 15:45	テーマ別交流研修会 （12分科会） ※詳細は、本誌17ページをご覧ください	大学3号館 1～3階
<<移動・休憩 15分>>		
16:00 ～ 17:00	全体会Ⅱ ◆テーマ別交流研修会の報告 ◆その他 ファシリテーター：住田 昌治（神奈川県横浜市立永田台小学校校長）	グリーンホール
17:00 ～ 17:30	第6回ESD大賞表彰式・閉会式	グリーンホール

会場案内



グリーンホール

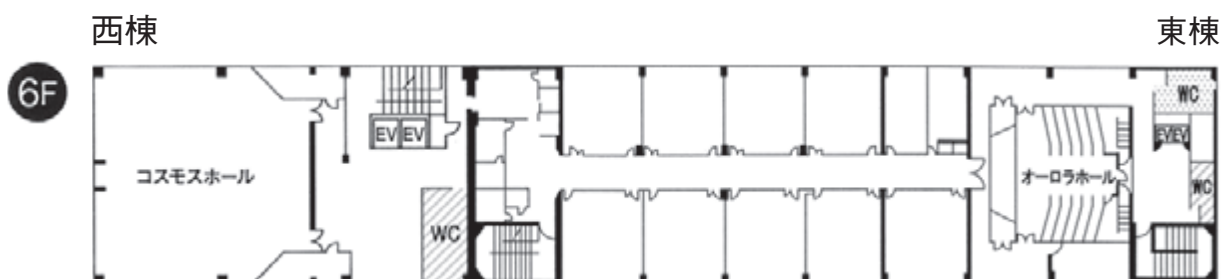
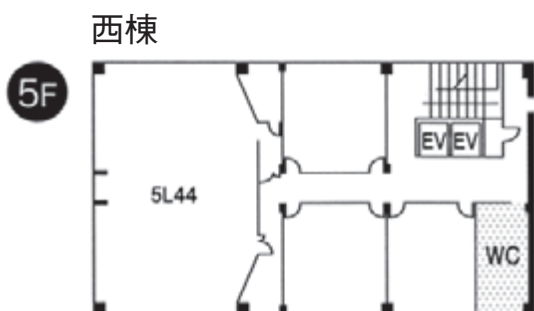
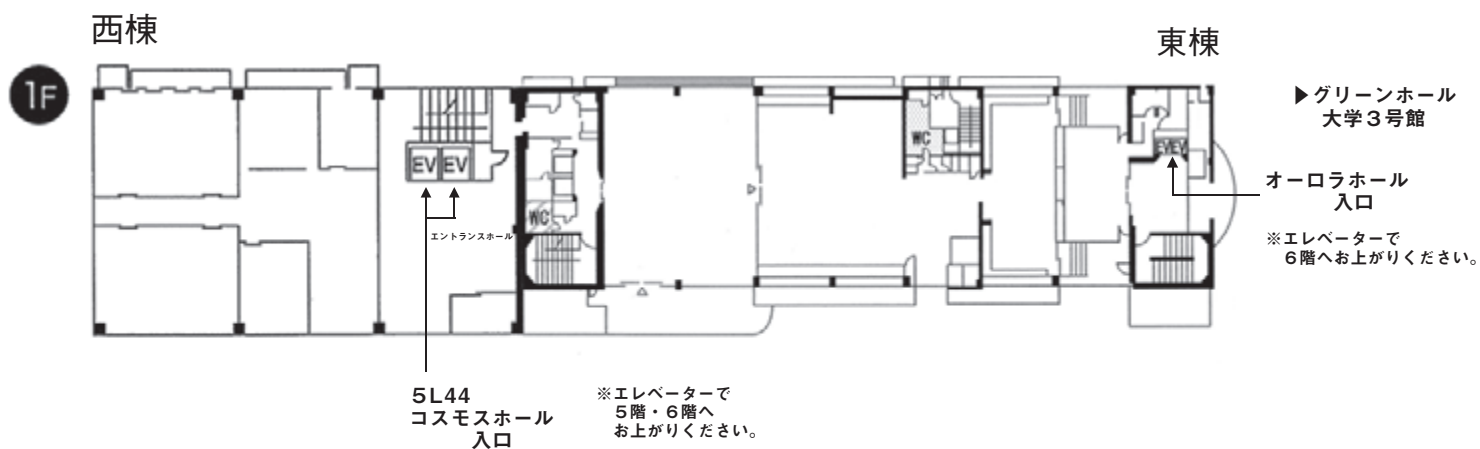


※男性トイレは地下にあります。

女性トイレ 

男性トイレ 

8 0 年 館



ランチョンセッション【12:30～13:30】

女性トイレ

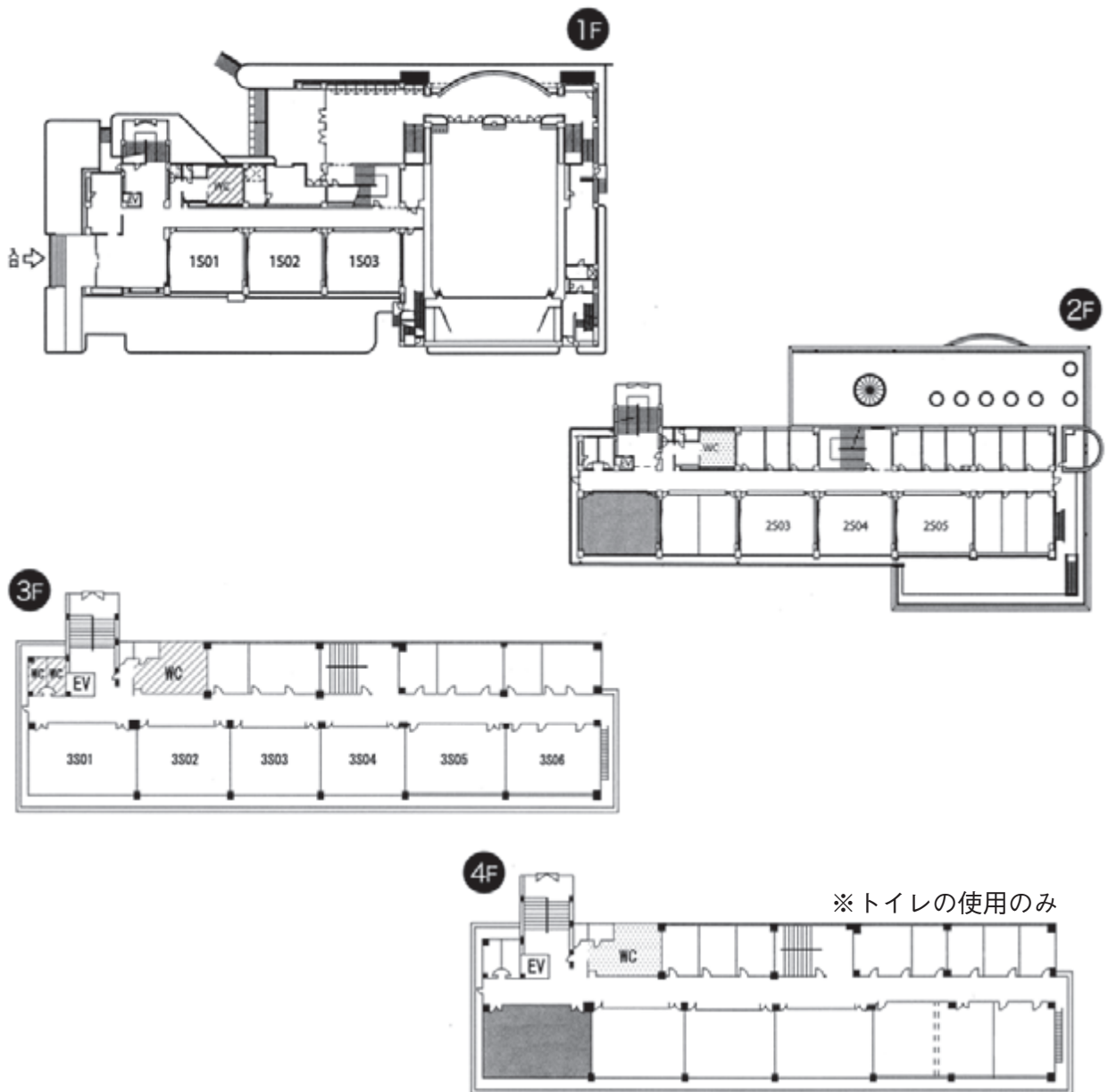


男性トイレ



西棟		東棟
5L44	コスモスホール	オーロラホール
MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社	株式会社ユニクロ	ネスレ日本株式会社
カシオ計算機株式会社	ネスレ日本株式会社	DIC株式会社

大学3号館



女性トイレ



男性トイレ



テーマ別交流研修会【13：45～15：45】

第1分科会：1S01	第7分科会：3S01
第2分科会：1S02	第8分科会：3S02
第3分科会：1S03	第9分科会：3S03
第4分科会：2S03	第10分科会：3S04
第5分科会：2S04	第11分科会：3S05
第6分科会：2S05	第12分科会：3S06

※詳細は、本誌17ページをご覧ください。

特別対談 「グローバル人材を育てる」

安西 祐一郎（あんざい ゆういちろう）

1974年 慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了

1985年 北海道大学文学部・同大学院文学研究科助教授

1988～2011年 慶應義塾大学理工学部・同大学院理工学研究科教授

1993～2001年 慶應義塾大学理工学部長・同大学院理工学研究科委員長

2001～2009年 慶應義塾長

2009年～現在 慶應義塾学事顧問

2011年～ 独立行政法人日本学術振興会理事長

2013年～ 日本ユネスコ国内委員会 会長

その間、カーネギーメロン大学コンピュータ科学科・心理学科博士研究員、同大学人文社会科学部客員助教授、マギル大学医学教育センター客員教授。

専門は認知科学・情報科学。著書等に『心と脳』（岩波新書）、『認識と学習』（岩波書店）、『問題解決の心理学』（中公新書）、『コミュニケーションの認知科学』全5巻（共編）（岩波書店）、『教育が日本をひらく』（慶應義塾大学出版会）ほか。

中央教育審議会会長、環太平洋大学協会会長、社団法人情報処理学会会長、日本認知科学会会長、日本学術会議会員等を歴任。

坂東 真理子（ばんどう まりこ）

富山県生まれ

1969年東京大学卒業、総理府入府

青少年対策本部、婦人問題担当室、老人対策室、内閣総理大臣官房参事官、総務省統計局消費統計課長などを経て内閣府男女共同参画室長に就任

1995年～1998年 埼玉県副知事

1998年～2000年 在オーストラリア連邦ブリスベン総領事

2001年～2003年 内閣府男女共同参画局長

2004年4月～ 昭和女子大学大学院生活機構研究科教授、女性文化研究所長 現在に至る

2005年～ 昭和女子大学副学長2007年3月まで

2007年4月～ 昭和女子大学学長 現在に至る

2014年4月～ 学校法人昭和女子大学理事長 現在に至る

2015年2月～ 中央教育審議会委員

著書等に「図説 世界の中の日本の暮らし」「新 家族の時代」「米国きゅりあうーまん事情」「副知事日記」「女性の品格」「日本の女性政策」「錆びない生き方」「日本人の美質」「60歳からしておきたいこと」「ソーシャル・ウーマン」「女性の知性の磨き方」など

米ビジネスウィーク社「Star of Asia」受賞（2003年）

今後のESD推進に向けて

我が国の提案を受け始まった「国連ESDの10年」の最終年である2014年には、日本政府とユネスコの共催により、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されました。日本ユネスコ国内委員会は、「国連ESDの10年」及び「ESDに関するユネスコ世界会議」の成果を踏まえ、ESDの更なる推進に向けた検討を目的として、ESD特別分科会を設置し、平成27年8月に報告書をまとめました。本報告書では、①ESDを広めるための取組、②ESDを深める（実践力を高める）ための取組、③国際的にESDを推進するための取組について、今後の推進方策をまとめています。

ESDを広めるための取組としては、学校現場でのESDの推進に向けたESDの具体的イメージの提示、教員の指導力向上のための研修の充実等が挙げられます。ESDの重要性が高まっていることを踏まえると、ESDは、全ての学校において取り組まれることが必要です。このため、ESDを各教科、総合的な学習の時間等において具体的にどのように取り組めばよいかや、その準備の進め方のイメージを示す「ESD実践の手引（仮称）」を作成することが必要であるとしています。また、教職員のESDに関する理解が不十分であるという指摘を受け、教員の指導力向上のための研修の充実が求められており、前述の「ESD実践の手引（仮称）」を都道府県教育委員会に周知し関連の研修での活用を促すこと等が述べられています。

ESDを深めるための取組としては、ESDの推進拠点としてのユネスコスクールの拡充を図るとともに、今後の学校におけるESDの実践モデルとなるよう、更なる活動の活発化及び充実を図ることが必要であるとしています。多くのユネスコスクールでは、組織的にESD等のユネスコ活動に取り組んでおり、こうした取組を通じた経験、実績をユネスコスクール間あるいはユネスコスクール以外の学校とも共有することが、更なる活動の充実につながると考えられます。また、ユネスコスクールのうち、モデル校となり得る学校を育成することも望まれています。ASPUUnivNetの加盟大学がこれまで行ってきた地域におけるユネスコスクール向けの研修を、体系的に実施していくことや、学校と地域との連携を担うコーディネーターの発掘・育成についても、その重要性が指摘されています。

国際的な動きとして、国内のユネスコスクールやユースが、ユネスコの事業に積極的に参加し世界と接点を持つことも重要であり、効果的な情報提供を行うことが求められています。

日本発のESDは、この10年で世界において大きくその存在感を増してきました。今後は、その取組が更に充実していくよう、文部科学省としても、本報告書を踏まえて、様々な形での支援をしていきたいと考えております。

文部科学省

今後のESDの推進方策

- ESDは、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)を実践するものとして効果的であると考えられることから、全ての学校でのESDの実践を目指すとともに、ユネスコスクールをESDの実践効果を高める取組を先導するモデル校として位置付ける。
- 学校と大学、若者、NGO／NPO、企業等の地域の関係者との連携を強化する。
- GAPに示された5つの優先行動分野に重点を置きながら、国際的なESDの推進に向けて引き続きリーダーシップを発揮する。

(1) ESDを広めるための取組

- 全ての学校におけるESDの実践を推進するため、ESDを各教科、総合的な学習の時間等において具体的にどのように実践すればよいのかや、その準備の進め方等のイメージを示す「ESD実践の手引(仮称)」を作成
(学校におけるESDのねらい、育成する資質・能力、ESDの意義や効果、具体的な学習活動の事例等を示す予定)
- ESDに関する教員の指導力向上のため、(独)教員研修センターや都道府県等の教育委員会にも働きかけ、「ESD実践の手引(仮称)」を活用した研修の実施や、(独)教員研修センター(次世代型教育推進センター)とも連携しながらより効果的な研修方法を検討
- 関連の指導主事を含め、都道府県等の教育委員会に対し、「ESD実践の手引(仮称)」について周知するとともに、関連の研修等における活用を働きかける
- 大学におけるESD実践の優良事例の収集・共有
- 地域におけるESDの取組への若者の参画を促進するため、若者がESDの取組を情報共有・発信するためのユースフォーラムを開催し、若者のネットワークを構築する

(2) ESDを深めるための取組

- ユネスコスクール全国大会を参加者間でのより活発な議論がなされる参加型の研修の場になるよう検討
- ユネスコスクールのうち、特に優れた実践を行うESD先進重点校への財政的支援
- ユネスコスクール支援大学間ネットワークの加盟大学を中心として、「ESD実践の手引(仮称)」を活用した地域における教員向けの研修を実施
- ESD推進のためのコンソーシアムを形成する事業を拡充・検証し、効果的なユネスコスクール間の交流方法や支援の在り方を普及
- 既存のユネスコスクール公式ウェブサイトを充実させ、教員同士が「ESD実践の手引(仮称)」を参考に行ったESDの実践や、使用した教材等をウェブサイト上で共有し、相互に活用できるような場の提供を検討
- 地域での多様なESDの実践をつなぐネットワークを形成

(3) 国際的にESDを推進するための取組

- 我が国がユネスコに拠出しているGAP信託基金を活用し、ユネスコ加盟国を対象としたESD事業の一層の推進
- ユネスコ／日本ESD賞で表彰された事例を積極的に発信するようユネスコに働きかけ、国内外におけるESDの実践の向上につなげる
- ドイツやスウェーデン等のESD先進国との連携を強化し、ユネスコスクール間での交流の促進等を検討
- ポスト2015開発アジェンダの目標の中にESDが盛り込まれるようESDの重要性を発信するとともに、ポスト2015開発アジェンダの指標の策定に積極的に貢献

ユネスコ主催気候変動国際セミナー参加校の紹介・課題共有

フランス・パリで開催される国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)にあわせ、気候変動に関するユネスコスクール気候変動国際セミナーが12月7日～8日にユネスコ本部において開催されます。この国際セミナーには世界11カ国からユネスコスクールに加盟している中学校・高等学校の教員や生徒が参加することになっており、日本からは気候変動をテーマとして取り組んできた6校の教員の方々が出席されます。

全国大会では、国際セミナー参加を控えた日本の参加校を紹介するとともに、各学校で実践している気候変動に関する取組や課題について共有します。

<参加校・参加教員一覧>

気仙沼市立階上中学校	宮城県気仙沼市	教諭 竹村 大貴
岡崎市立新香山中学校	愛知県岡崎市	教諭 山口 裕嗣
信州大学教育学部附属松本中学校	長野県松本市	副校長 賜 正俊
秋田市立秋田商業高等学校	秋田県秋田市	教諭 大堤 直人
神戸市立葺合高等学校	兵庫県神戸市	教諭 ローズ・サバナル
不二聖心女子学院中学校・高等学校	静岡県裾野市	教諭 中山 駿

分科会Ⅰ：テーマ別交流研修会（大学3号館1階～3階） 13：45～15：45

分科会 (教室)	テ　　マ　・　タ　イ　ト　ル	事例発表者
第1分科会 (1S01)	ホールスクールアプローチ、活動の継続性、 校内連携（幼小） 「学校全体で取り組むESD」	東京都多摩市立多摩第一小学校 教諭 森田 啓子
第2分科会 (1S02)	ホールスクールアプローチ、活動の継続性、 校内連携（中高） 「『平和』をコアにしたホールスクールアプローチ としてのESDの実践 ～『平和の集い』の取り組みを通して～」	奈良教育大学附属中学校 教諭 小嶋祐伺郎
第3分科会 (1S03)	地域連携、 大学・企業・NPO・教委（行政）との連携（幼小） 「なかさとつ子地域プロジェクト ～コミュニティ・スクールの機能を生かして～」	福島県三春町立中郷小学校 校長 佐久間葉子
第4分科会 (2S03)	地域連携、 大学・企業・NPO・教委（行政）との連携（中高） 「地域と連携した課題解決型学習」	岡山県立和気閑谷高等学校 教諭 大野 浩志
第5分科会 (2S04)	教科横断、教科とのリンク（幼小） 「ESDの視点に立つ教科学習の展開 ～宇宙空間の概念を広げ、自然観を豊かにする 理科学習を通して～」	愛知県岡崎市立男川小学校 教諭 稲垣 裕子
第6分科会 (2S05)	教科横断、教科とのリンク（中高） 「2050年の地球社会を救うための授業」	渋谷教育学園渋谷中学高等学校 教諭 北原 隆志
第7分科会 (3S01)	ユネスコスクールの学校経営、 管理職のリーダーシップ、校内の環境整備（幼小） 「ESDを取り入れた学校経営のあり方」	東京都江東区立八名川小学校 研究主任 吉岡佐登美
第8分科会 (3S02)	ユネスコスクールの学校経営、 管理職のリーダーシップ、校内の環境整備（中高） 「ユネスコスクールとカリキュラム・マネジメント」	東京都多摩市立東愛宕中学校 校長 千葉 正法
第9分科会 (3S03)	学校間交流 「ESD Foodプロジェクトにおける国際協働学習の 実践」	宮城県大崎市立大貫小学校 教諭 佐藤 弘子
第10分科会 (3S04)	ESDの評価 「ESDの推進および授業改善」	東京都大田区立大森第六中学校 教諭 柴崎 裕子
第11分科会 (3S05)	学習指導要領とESD （思考・判断・表現力の育成、体験活動、 学習意欲の育成、活用型・探究型学習など）（幼小） 「学習指導要領をESDに染める」	神奈川県横浜市立永田台小学校 教諭 広木 敬子
第12分科会 (3S06)	学習指導要領とESD （思考・判断・表現力の育成、体験活動、 学習意欲の育成、活用型・探究型学習など）（中高） 「世界に貢献できるグローバルリーダーの育成」	昭和女子大学附属 昭和中学校・昭和高等学校 教諭 及川 道子

第1分科会：ホールスクールアプローチ、活動の継続性、校内連携（幼小）

学校全体で取り組む ESD

森田 啓子（東京都多摩市立多摩第一小学校 教諭）



本校は、ESDで育む能力・態度を問題解決能力・協力・意欲とした。持続可能な社会づくりの価値観や実践力を育成するためには、小中学校で能力や態度を育成する必要がある。問題解決学習のプロセスを活用することで、結果として多面的に考える力や発信・行動する力と共に、価値観を育成することをねらいとした。そこで、指導方法として「多摩一型問題解決学習の流れ」を作成し全学年で活用した。また、活動後の振り返りやポートフォリオ評価を活用し、教師の評価だけでなく児童の自己評価にも活用した。ESDのねらい、指導方法、評価方法を学校全体で統一したことで、教員の指導力が向上し、児童の知識や思考が

高まった。また、活動前後の児童の意識調査からの活動意欲や協力姿勢も向上した。さらに、毎年指導を継続することで、前年の成果を活かす児童も見られ、学びのつながりもうまれている。

第2分科会：ホールスクールアプローチ、活動の継続性、校内連携（中高）

「平和」をコアにしたホールスクールアプローチとしての ESD の実践 ～「平和の集い」の取り組みを通して～

小嶋 祐伺郎（奈良教育大学附属中学校 教諭）



本校ではD-ESD開始当初より学習内容のコアを「平和」に求め、ホールスクールアプローチとして、全教科・領域をつないだ対話型学習によって平和・人権・民主主義に基づく学びのカリキュラム構築に取り組んできた。

平和の学びのひとつの結実点として生徒の発案で始まった「平和の集い」がある。昨年度はさまざまな平和を脅かす事柄（暴力の文化）について、学級ごとに調査し報告し合うことを始めに、縦割りでの対話、全校での対話を通して考えたことを「平和宣言」として形に残すことをめざして取り組んだ。数年前からはじまった韓国広州大学附設中学校の生徒も同席しての平和の集いを実施し、「環境」「教育」「人権」「防災」などのテーマをともに話し合う中で相互理解に必要なことは何かについて考えを深めていくことができた。事前学習から発表・話し合い、そして平和宣言の作成という一連の学習を通して、ESDをより身近に、そして切実なものとしてとらえる学びになった。

第3分科会：地域連携、大学・企業・NPO・教委（行政）との連携（幼小）

なかさとっ子 地域プロジェクト

～コミュニティ・スクールの機能を生かして～

佐久間 葉子（福島県三春町立中郷小学校 校長）



コミュニティ・スクールの機能を生かし地域と一体となった教育を推進し、地域の一員としてふるさとに愛着や誇りを持ち、自ら実践できる子どもを育成するため、「滝桜を守ろうプロジェクト」「さくらっ子まつりプロジェクト」等様々な地域と連携した教育活動を行っている。

今年度は①体験にとどまることなく、資質・態度の育成を図ること。②「何を知っているか」でとどまることなく、「何ができるか」に改善すること。③地域への愛着と誇りを+地域の一員として感謝の心を実践化することの3つの視点を重視し、学習コーディネーター（公民館長さん）を地域の窓口として、地域の人・もの・こととの関わりを深め、地域と

創る教育活動を工夫している。健康な生活習慣を育成するため、児童会が地域にも呼びかけ作成した「なかさとっ子 キャッチフレーズ」は、幼稚園や地域へも広がっている。

第4分科会：地域連携、大学・企業・NPO・教委（行政）との連携（中高）

地域と連携した課題解決型学習

大野 浩志（岡山県立和気閑谷高等学校 教諭）



2014年度から総合的な学習の時間で地域を教材とする探究学習を展開している。地域課題に向き合う課題解決型学習を通して、①地域活性化に取り組む、②課題解決能力を育む、③地域に愛着を持ち地域コミュニティの担い手となる人材を育成する、の3点を目指している。この活動は町との連携により派遣されている支援職員（地域おこし協力隊）4名がコーディネートし、地域の諸機関・団体の協力を得て実施している。

今年度の活動は以下の通り。1年生…探究学習の基礎、2年生…「いのち、ぶんか、くらし、こころ」の4大テーマで探究活動、

3年生…進路学習とリンクさせ「和気町を理想のまちに」の提案。

生徒の感想からは、社会参画への主体性の芽生え、コミュニケーション能力向上の実感、地域社会への興味や愛着の深化、が見られる。外部評価委員からは、生徒の意識と地域貢献度の向上、高校を核とした地域コミュニティの活性化、について評価を受けている。

第5分科会：教科横断、教科とのリンク（幼小）

「ESDの視点に立つ教科学習の展開」

～宇宙空間の概念を広げ、自然観を豊かにする理科学習を通して～

稲垣 裕子（愛知県岡崎市立男川小学校 教諭）



ESDの視点に立った課題への見方や考え方を、多角的多面的な視点に広げていくために、教科学習を通して、子供自身が課題に関わる知識や情報を持ち、それらを活用した思考力、判断力、表現力を身に付けることが必要である。そこで、理科学習を核に発展的に展開する総合的な学習の時間を計画した。きれいで不思議に輝く星たちを包み込む壮大な宇宙。わたしたちが今生きるこの地球も、宇宙に散らばる星たちからは、きれいな不思議に光って見える星の一つである。平面的にとらえてしまいがちな空は、実は無限に広がる3Dの世界であり、星の明るさも星座の構成も月の満ち欠けも、空間の中で時間と距離が絡

み合ってこの地球に届いている。その神秘への知的好奇心を膨らませながら、科学的な見方をもって宇宙空間の概念を培い、自分が生きるこの地球と宇宙とのつながりを意識した豊かな自然観を持つ子供を育成したいと考え、本研究を実践した。

第6分科会：教科横断、教科とのリンク（中高）

2050年の地球社会を救うための授業

北原 隆志（渋谷教育学園渋谷中学高等学校 教諭）



本校では「自調自考、国際人」という学校目標のもとに、グローバルイシューの解決に対して高い意識を持つ人材の育成を目指している。

高1では、平和をテーマに、英語科、社会科、国語科、理科、音楽科、情報科が連携し、学びを深め、あわせて広島での現地取材をもとに教材を作成した。また実際に米国の高校で本校生徒がその教材を使って授業を行った。高2では、貧困、難民、子供の人権、水、エネルギー、宗教、環境などの問題について複数の教科が連携して学びを行った他、それらの解決に向けて、実際に個人またはグループで行動を起こし、内外に発信するプロジェクトを行っている。

その結果、生徒達は様々な課題について深い議論を英語でも行えるようになった。また地球社会の一員としての自覚を持ち、それに参画しているという意識を持って行動するようになった。

第7分科会：ユネスコスクールの学校経営・管理職のリーダーシップ・校内の環境整備（幼小）

ESDを取り入れた学校経営のあり方

吉岡 佐登美（東京都江東区立八名川小学校 研究主任）



本校では6年前に手島利夫校長が着任し、そこからユネスコスクール・ESDの教育が始まりました。それ以前は『俳句』で有名な学校でした。

ESDは学校全体で取り組まなくては進みません。ですから校長のリーダーシップが何より重要です。この分科会では、職員から見た手島校長の学校経営の秘密をお伝えいたします。キーワードはこの5つです。

- 1, 「皆さんの責任は私がとります」・・・安心感、絶対に見捨てない覚悟
- 2, 「民主主義は教えるものではない」・・・民主的経営と民主的な学び
- 3, 「子どもの学びに火を付けろ」

・・・・・・職員と一緒に授業づくりを工夫する

- 4, 「日本と世界の教育を変える」

・・・・・・地域や世界からも学び発信する校内研究

- 5, 「世界文化遺産級の保護者です」

・・・・八名川の良さを伝え、プライドを高める

第8分科会：ユネスコスクールの学校経営・管理職のリーダーシップ・校内の環境整備（中高）

ユネスコスクールとカリキュラム・マネジメント

千葉 正法（東京都多摩市立東愛宕中学校 校長）



1. ユネスコスクールガイドラインの尊重

平成24年8月に日本ユネスコ国内委員会から示されたユネスコスクールガイドラインを尊重して、学校経営の柱である経営方針等とその表裏である学校評価にユネスコスクールとしての趣旨や方向性はもちろん、教育内容として学校内外に具体的に示すことが大切である。その結果として学校が動き、地域や社会の課題を解決する学習が組織できる。

2. 学校管理職はマスターキーの存在

ユネスコスクールを質的に支えるのは、さまざまな学習機会や体験活動など学校内外との組織的・横断的な学習である。そのためには学びの

質や深まりを重視したカリキュラム・マネジメントが必要である。横断的な学習内容や人や組織をつなぎながら「何を学ぶか」より「どう学ぶか」を意識して、主体的な学びや協働的な実践を構築する必要がある。

3. 校内の環境整備

ESDの推進拠点であるユネスコスクールで重要なことは、学ぶことと社会のつながりを意識した上で、「何を教えるか」という知識の量や質の改善に加えて、「どう学ぶか」「どのような力が身に付いたか」についての考え、改善を図ることが必要である。そして、そのための研究や授業改善と具体化するためのコーディネーションが重要である。

第9分科会：学校間交流

ESD Food プロジェクトにおける国際協働学習の実践

佐藤 弘子（宮城県大崎市立大貫小学校 教諭）



「ESD Foodプロジェクト」は持続可能な社会を創る「変化の担い手」としての若者を育むプロジェクトであり、国際協働学習と地域と学校に根付いた学習の推進がなされています。参加校は「食」を入口に「経済」「社会」「環境」「文化」の視点から地域や世界が直面する問題を特定し、問題解決に向けて児童生徒自身が考え、行動します。日本から7校*1とインドから5校が参加し、ディスカッションを通じて学びあいを深めています。

どの参加校もユネスコ・アジア文化センターが開発したHOPEフレームワークに基づき包括的、主体的、参加型、協働、エンパワーメントの視点を大切にプロジェクトを実施しています。宮城県大崎市立大貫小学校では、児童は持続可能な大貫コミュニティについて調べたのち、伝統的な食事に関する調査をし、地域の持続可能性が内包された食生活について提言を行います。活動の節目にはインドの児童とビデオ会議をします。これらの活動は、地域NPO等の協力も得て行われます。

*1：宮城県大崎市立大貫小学校、東京都大田区立大森第六中学校、ぐんま国際アカデミー中高等部、MIHO美学院中等教育学校、福島県立安達高等学校、神戸大学附属中等教育学校、広島県立安古市高等学校

第10分科会：ESDの評価

ESD の推進および授業改善

柴崎 裕子（東京都大田区立大森第六中学校 教諭）



校内研究推進委員会開き、組織的に研修している。「思考力分科会」では、ESDで育てる力の「批判力」「未来を予測して計画を立てる力」「多面的、総合的に考える力」を見据え、全教科の見直しを図り、思考力ツールや話し合い活動などを取り入れ、生徒のジレンマを引出す手法など、教材に工夫をした。「コミュニケーション分科会」では、思考力や課題解決能力をつけながら、話し合いを入れた、生徒主体の授業を展開させた。「ESDの態度分科会」では、「平和」をテーマにクロスカリキュラムを作成し、「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」を引出した。

環境教育では地域とのつながりを大切に、体験を通じた活動を中心に生徒の自己有用感を育てている。

防災教育では、学校を避難所にした防災訓練を通して、地域の中での「変化の担い手」として、活動する。

国際理解教育では、異文化理解を大切にした交流が続いている。

平和維持活動として、学校敷地内の防空壕を保存し、広島市長からの被爆アオギリⅡ世を植樹し、生徒による平和の歌を作成した。

授業改善の取組の中で、ポートフォリオで生徒の変容を追い、ESDで培われた力と態度の育成に今後も継続して力を注ぐ。

第11分科会：学習指導要領とESD（思考・判断・表現の育成、体験活動、学習意欲の育成、活用型・探究型学習など）（幼小）

学習指導要領を ESD に染める

広木 敬子（神奈川県横浜市立永田台小学校 教諭）



元々「ESDは何も新しいことではなく、既存の教育の再方向付けである」とユネスコ国際実施計画で言われていた。日本で言えば、学習指導要領を実施する上で「持続可能な社会の構築」を意識して、日々の教育活動を行うことに他ならない。

また、教育課程企画特別部会『論点整理』冒頭に「2030年の社会と、そして更にその先の豊かな未来を築くために」と記されている。正にESDが担う部分である。また、ESDの理念がかなり盛り込まれ、学習指導要領がホールスクールで捉えられている。ESDの推進拠点であるユネスコスクールは、日本の教育を変える原動力としてESDを

捉え直し、学習指導要領がESDで染まっていくようにアプローチしていくことが望ましい。

本校では、ホールスクールアプローチでESDにチャレンジし、ケアリングをESDのエッセンスとして、知識を獲得するプロセスで得た能力を、生活や社会で活用し、行動・生活様式の変容にまで高める取組を継続的に行っている。また、授業においては、「環境・経済・社会」の視点から授業デザインを考え、命をベースにしたカリキュラム編成をして人格形成に重点を置いた教育活動を推進している。

第12分科会：学習指導要領とESD（思考力・判断力・表現力の育成、体験活動、学習意欲の喚起、活用型・探究型学習など）（中高）

世界に貢献できるグローバルリーダーの育成

及川 道子（昭和女子大学附属昭和中学校・昭和高等学校 教諭）



本校では、他者理解・国際理解・環境教育を3つの柱として、授業や特別活動、生徒の委員会活動など、日常の様々な場面にESDの実践を組み入れています。その1つ1つのプログラムが繋がりと広がりを持ち体系化され、中高6年間にによりよく「生きる力」が自然と身についていきます。特に総合的な学習の時間には、自らテーマを決めて取り組む個人研究と、クラスやグループで行う共同研究やサービス

ラーニング等の活用型・探究型学習を展開することで、思考力・判断力・表現力を養います。毎日行う朋友班活動(中高6学年の縦割りグループによる清掃や親睦)や委員会活動を通して、環境美化・国際理解・様々な社会貢献等、自分たちにできることを実践する活動を展開しています。また、毎年行う学年単位の宿泊研修では体験型協働プログラムを実施します。そして、海外研修を複数回経験し、国際的な教養と感受性を身につけたグローバルマインド・グローバルリーダーの育成を図っています。

出張授業「学ぼう！ラムサールサポーターズ」

2010年度にMS&ADインシュアランス グループ（三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保を中核企業とする保険金融グループ）が発足した際、水辺の生物多様性保全活動「MS&ADラムサールサポーターズ」は始まりました。全国各地のラムサール条約登録湿地等でのボランティア活動に、2014年までの5年間で約5,300人の社員とその家族が参加しました。

2013年には活動の輪をさらに広げるべく、水辺という自然の豊かさ、多様な生きものがいること（生物多様性）の大切さ、それを守る方法や仕組みなどを学ぶ6本の短い映像を使ったカリキュラムを作成、出張授業を開始しました。講師が生徒と対話形式で授業を進め、渡り鳥・コハクチョウのぬいぐるみで実際の大きさと重さを体感、渡る距離をスケールで実感するなど、気づきを与える工夫をしています。副教材として、冊子「ラムサールハンドブック」、下敷き「生きものもごはんも田んぼのめぐみ」もご用意しています。

それぞれの地域に、独自の自然という素晴らしい学習資源があり、このカリキュラムはそうした自然に目を向ける導入としてもご利用いただけます。「学ぼう！ラムサールサポーターズ」で、子どもたちが地域の自然に愛着や誇りをもち、大切にすることを育むお手伝いができたらと考えています。

<問い合わせ先>

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社 人事・総務部

メールアドレス：kankyo_koken@ms-ad-hd.com

ホームページ：http://www.ms-ad-hd.com/ramsar/school/index.html



カシオ計算機株式会社

CASIO

「命の授業」の取り組み

持続可能な社会の実現を望み、2007年6月に立ち上げた出前授業：「命の授業」は、2015年9月10日現在で施行期間も含め、小・中学校を主体に延べ498の機関（幼稚園～大学、行政を含む公的機関からの講演要請、NPO、PTA等）、51,365名を数えました。（2012年度は東日本大震災で被害を受けた北関東以北の小・中学校20校でも実施）。すべての社会事象に内在する「命の大切さ」を伝えることで、将来のリーダーたる子どもたちの、社会及び地球環境への意識を喚起し、持続可能な開発のための教育を根幹とした社会の実現へ思いを馳せております。授業の根幹は、「全てとの絆」、「命のつながり」、そして、「心の成長」に置いており、また、“真実”を伝えることで、「気づき」を、“本気で語る”ことで、「意識の醸成」を、そして、“変革を促す”ことで、子どもたちの「行動」を喚起することを目指したものでございます。文部科学省主催のシンポジウム、及び全国からご要請を頂く各地域での講演活動にも繋がっており、父兄の方々との触れ合いも通じ、大人社会への発信も同時進行しております。本授業が、真の持続可能な社会実現への糸口となり、広く社会に浸透することを願い、今後も積極的な活動を展開して参ります。

<問い合わせ先>

カシオ計算機株式会社 CSR推進室 若尾 久 TEL:03-5334-4901



D I C株式会社



理科実験授業の提供

総合化学メーカーであるD I Cは、将来にわたってステークホルダーの皆様へ信頼される企業であり続けるためサステナビリティを重視しており、サステナビリティの一つのテーマである社会貢献活動にも注力しております。

『くらしをカラフルにする化学の力』と題された当授業は、社会問題化している子どもの理科離れに化学メーカーとして対応するものであり、事業所近隣の公立小学校を対象としています。

授業は、有機顔料と印刷インキの世界シェアトップであるD I Cの個性を生かし、簡単な顔料合成実験と平版印刷実験の2つの実験を通して、「化学とは何か」、「理科の勉強は身近な社会生活の役に立っている」ということを学ぶカリキュラムとなっております。子どもに、「理科は楽しい」と感じてもらうだけでなく、学校や先生の役に立てるように、授業内容と実施時期は、学習指導要領（小学6年生）に合わせています。

D I Cは、今後も本活動を継続して参ります。

<問い合わせ先>

D I C株式会社 総務人事部 光谷幸世 TEL:03-6733-3003



ネスレ日本株式会社



自分のからだは自分でつくる 「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」

「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」はネスレの共通価値創造(CSV:Creating Shared Value)の3つの注力エリアの1つ「栄養」の主要な取組のひとつで、栄養プログラムと運動プログラムを組み合わせた子どもの健康改善プログラムです。2014年末までに、既に73カ国で展開されています。日本では「自分のからだは自分でつくる」をコンセプトに活動し、2015年3月までに延べ5,479校の小学校、延べ約86万人の児童に教材を提供しています。

栄養プログラムでは食べることの意味、食べ物の働きや栄養バランス、丈夫な骨について学び、運動プログラムでは栄養の知識を使ってからだを動かす「ヘルシーキッズ鬼ごっこ」、限られたスペースで一人でもできる「ヘルシーキッズBRTプログラム」に取り組み、持続可能な社会の担い手としての子どもたちの健康に貢献します。

<問い合わせ先>

一般社団法人ニュートリション運動推進会議子どもの健康づくり委員会
TEL:03-3541-6362 <http://www.ugoku-taberu.com>



“届けよう、服のチカラ” プロジェクト

ユニクロでは、2006年より、不要になったユニクロ商品のリユース・リサイクルを行う『全商品リサイクル活動』を実施しております。回収した衣料は主に、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を通じて、世界中の難民・避難民のもとに届けられます。

全商品リサイクル活動の一環として、2009年から小・中・高校と連携し、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトを実施しています。本プロジェクトでは、まずユニクロ社員が出張授業を実施し、服のもつ役割や、寄贈先である難民・避難民の様子をレクチャーします。その後、児童・生徒自身がポスターやチラシを作成して校内や地域に告知をし、回収・発送を行います。衣料の寄贈後には、ユニクロより難民キャンプでの寄贈レポートを各学校に共有します。

2015年度は全国の小中高238校、約26,000人が参加し、学校関係者からは、「国際問題や環境問題への関心や理解を深めることにつながった。」「地域とのつながりが強くなった。」「社会貢献への意識が変わった。」などのご好評を頂いております。今後もユニクロは、本プロジェクトを通じて未来を担う子どもたちの育成に努めていきます。

<問い合わせ先>

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト事務局 TEL:03-5565-6551（土日祝日を除く10:00-18:00）

E-mail: fukunochikara@fastretailing.com



ユネスコスクール一覧（2015年6月現在）

区分	学 校 名	都道府県	市町村
幼稚園	湖畔幼稚園	北海道	釧路市
	わかばフレンド幼稚園	北海道	釧路市
	みはらフレンド幼稚園	北海道	釧路市
	愛国フレンド幼稚園	北海道	釧路市
	清泉幼稚園	北海道	室蘭市
	羅臼町立羅臼幼稚園	北海道	目梨郡
	羅臼町立春松幼稚園	北海道	目梨郡
	気仙沼市立馬籠幼稚園	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立唐桑幼稚園	宮城県	気仙沼市
	清和大学附属八重原幼稚園	千葉県	君津市
	新潟大学教育学部附属幼稚園	新潟県	長岡市
	かおり幼稚園	山梨県	甲斐市
	静岡市立清沢幼稚園	静岡県	静岡市
	静岡市立東豊田幼稚園	静岡県	静岡市
	静岡市立由比幼稚園	静岡県	静岡市
	愛知教育大学附属幼稚園	愛知県	名古屋市中区
	名古屋市立桶狭間幼稚園	愛知県	名古屋市中区
	名古屋市立神の倉幼稚園	愛知県	名古屋市中区
	奈良市立富雄北幼稚園	奈良県	奈良市
	奈良市立二名幼稚園	奈良県	奈良市
小学校	奈良市立都跡幼稚園	奈良県	奈良市
	奈良市立六条幼稚園	奈良県	奈良市
	鳳鳴乃里幼稚園舎	佐賀県	佐賀市
	厚岸町立太田小学校	北海道	厚岸郡
	石狩市立生振小学校	北海道	石狩市
	石狩市立双葉小学校	北海道	石狩市
	恵庭市立松恵小学校	北海道	恵庭市
	江別市立対雁小学校	北海道	江別市
	小樽市立高島小学校	北海道	小樽市
	千歳市立緑小学校	北海道	千歳市
	千歳市立末広小学校	北海道	千歳市
	北海道教育大学附属釧路小学校	北海道	釧路市
	当別町立弁華別小学校	北海道	石狩郡
	羅臼町立羅臼小学校	北海道	目梨郡
	羅臼町立春松小学校	北海道	目梨郡
	更別村立更別小学校	北海道	河西郡
	留寿都村立留寿都小学校	北海道	虻田郡
	北海道教育大学付属札幌小学校	北海道	札幌市
	宮城教育大学附属小学校	宮城県	仙台市
	石巻市立鮎川小学校	宮城県	石巻市
中学校	角田市立東根小学校	宮城県	角田市
	大河原町立大河原南小学校	宮城県	柴田郡
	気仙沼市立水梨小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立大島小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立面瀬小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立鹿折小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立新城小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立中井小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立階上小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立松岩小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立月立小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立唐桑小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立九条小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立小原木小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立馬籠小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立津谷小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立大谷小学校	宮城県	気仙沼市
	気仙沼市立小泉小学校	宮城県	気仙沼市
	栗原市立高清水小学校	宮城県	栗原市
	白石市立斎川小学校	宮城県	白石市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小学校	白石市立白石第二小学校	宮城県	白石市
	白石市立白川小学校	宮城県	白石市
	白石市立小原小学校	宮城県	白石市
	白石市立白石第一小学校	宮城県	白石市
	白石市立福岡小学校	宮城県	白石市
	白石市立深谷小学校	宮城県	白石市
	白石市立大鷹沢小学校	宮城県	白石市
	大崎市立鳴子小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鬼首小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立大貫小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鹿島台小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立鹿島台第二小学校	宮城県	大崎市
	大崎市立沼部小学校	宮城県	大崎市
	大和町立鶴巣小学校	宮城県	黒川郡
	大河原町立大河原小学校	宮城県	柴田郡
	大河原町立金ヶ瀬小学校	宮城県	柴田郡
	富谷町立日吉台小学校	宮城県	黒川郡
	丸森町立金山小学校	宮城県	伊具郡
	新庄市立北辰小学校	山形県	新庄市
	新庄市立新庄小学校	山形県	新庄市
	新庄市立沼田小学校	山形県	新庄市
中学校	須賀川市立白方小学校	福島県	須賀川市
	須賀川市立長沼東小学校	福島県	須賀川市
	只見町立朝日小学校	福島県	南会津郡
	いわき市立四倉小学校	福島県	いわき市
	会津若松市立川南小学校	福島県	会津若松市
	足利市立東山小学校	栃木県	足利市
	高崎市立六郷小学校	群馬県	高崎市
	藤岡市立鬼石北小学校	群馬県	藤岡市
	藤岡市立日野小学校	群馬県	藤岡市
	藤岡市立美九里西小学校	群馬県	藤岡市
	藤岡市立鬼石小学校	群馬県	藤岡市
	藤岡市立神流小学校	群馬県	藤岡市
	藤岡市立平井小学校	群馬県	藤岡市
	藤岡市立藤岡第二小学校	群馬県	藤岡市
	藤岡市立美九里東小学校	群馬県	藤岡市
	藤岡市立美土里小学校	群馬県	藤岡市
	前橋市立大胡東小学校	群馬県	前橋市
	熊谷市立久下小学校	埼玉県	熊谷市
	熊谷市立佐谷田小学校	埼玉県	熊谷市
	さいたま市立新開小学校	埼玉県	さいたま市
中学校	蓮田市立蓮田中央小学校	埼玉県	蓮田市
	千葉市立白井小学校	千葉県	千葉市
	市川市立中山小学校	千葉県	市川市
	市川市立稲越小学校	千葉県	市川市
	市川市立鶴指小学校	千葉県	市川市
	市川市立大野小学校	千葉県	市川市
	市原市立辰巳台西小学校	千葉県	市原市
	成田市立公津の杜小学校	千葉県	成田市
	荒川区立尾久宮前小学校	東京都	荒川区
	大田区立赤松小学校	東京都	大田区
	葛飾区立青戸小学校	東京都	葛飾区
	江東区立東雲小学校	東京都	江東区
	江東区立八名川小学校	東京都	江東区
	新宿区立西戸山小学校	東京都	新宿区
	杉並区立西田小学校	東京都	杉並区
	世田谷区立中里小学校	東京都	世田谷区
	東京学芸大学附属大泉小学校	東京都	練馬区
	聖心女子学院初等科	東京都	港区
	目黒区立五本木小学校	東京都	目黒区
	小笠原村立小笠原小学校	東京都	小笠原村

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	小笠原村立母島小学校	東京都	小笠原村
	稲城市立稲城第二小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第三小学校	東京都	稲城市
	稲城市立向陽台小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第六小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第七小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第四小学校	東京都	稲城市
	稲城市立長峰小学校	東京都	稲城市
	稲城市立平尾小学校	東京都	稲城市
	稲城市立若葉台小学校	東京都	稲城市
	稲城市立稲城第一小学校	東京都	稲城市
	稲城市立城山小学校	東京都	稲城市
	清瀬市立清明小学校	東京都	清瀬市
	多摩市立永山小学校	東京都	多摩市
	多摩市立西落合小学校	東京都	多摩市
	多摩市立貝取小学校	東京都	多摩市
	多摩市立豊ヶ丘小学校	東京都	多摩市
	多摩市立北諏訪小学校	東京都	多摩市
	多摩市立南鶴牧小学校	東京都	多摩市
	多摩市立東寺方小学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩第二小学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩第三小学校	東京都	多摩市
	多摩市立東愛宕小学校	東京都	多摩市
	多摩市立連光寺小学校	東京都	多摩市
	多摩市立大松台小学校	東京都	多摩市
	多摩市立多摩第一小学校	東京都	多摩市
	多摩市立聖ヶ丘小学校	東京都	多摩市
	多摩市立瓜生小学校	東京都	多摩市
	多摩市立諏訪小学校	東京都	多摩市
学	多摩市立西愛宕小学校	東京都	多摩市
	多摩市立東落合小学校	東京都	多摩市
	調布市立布田小学校	東京都	調布市
校	横浜市立永田台小学校	神奈川県	横浜市
	横浜市立幸ヶ谷小学校	神奈川県	横浜市
	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校	神奈川県	鎌倉市
	新潟市立下山小学校	新潟県	新潟市
	新潟市立上山小学校	新潟県	新潟市
	柏崎市立北鯖石小学校	新潟県	柏崎市
	佐渡市立相川小学校	新潟県	佐渡市
	十日町市立飛渡第一小学校	新潟県	十日町市
	見附市立見附小学校	新潟県	見附市
	見附市立田井小学校	新潟県	見附市
	見附市立上北谷小学校	新潟県	見附市
	見附市立見附第二小学校	新潟県	見附市
	見附市立今町小学校	新潟県	見附市
	見附市立名木野小学校	新潟県	見附市
	見附市立葛巻小学校	新潟県	見附市
	見附市立新潟小学校	新潟県	見附市
	新潟大学教育学部附属長岡小学校	新潟県	長岡市
	富山市立中央小学校	富山県	富山市
	富山市立寒江小学校	富山県	富山市
	富山市立五福小学校	富山県	富山市
	富山市立光陽小学校	富山県	富山市
	富山市立堀川小学校	富山県	富山市
	富山市立神通碧小学校	富山県	富山市
	富山市立古沢小学校	富山県	富山市
	高岡市立成美小学校	富山県	高岡市
	氷見市立朝日丘小学校	富山県	氷見市
	金沢市立浅野川小学校	石川県	金沢市
	金沢市立朝日小学校	石川県	金沢市
	金沢市立金石町小学校	石川県	金沢市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	金沢市立材木町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立四十万小学校	石川県	金沢市
	金沢市立田上小学校	石川県	金沢市
	金沢市立戸板小学校	石川県	金沢市
	金沢市立森山町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立中央小学校	石川県	金沢市
	金沢市立花園小学校	石川県	金沢市
	金沢市立鞍月小学校	石川県	金沢市
	金沢市立三馬小学校	石川県	金沢市
	金沢市立味噌蔵町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立三谷小学校	石川県	金沢市
	金沢市立長坂台小学校	石川県	金沢市
	金沢市立西小学校	石川県	金沢市
	金沢市立大野町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立押野小学校	石川県	金沢市
	金沢市立内川小学校	石川県	金沢市
	金沢市立湯涌小学校	石川県	金沢市
	金沢市立十一屋小学校	石川県	金沢市
	金沢市立明成小学校	石川県	金沢市
	金沢市立千坂小学校	石川県	金沢市
	金沢市立夕日寺小学校	石川県	金沢市
	金沢市立粟崎小学校	石川県	金沢市
	金沢市立犀川小学校	石川県	金沢市
	金沢市立南小立野小学校	石川県	金沢市
	金沢市立伏見台小学校	石川県	金沢市
	金沢市立扇台小学校	石川県	金沢市
学	金沢市立泉野小学校	石川県	金沢市
	金沢市立小立野小学校	石川県	金沢市
	金沢市立米泉小学校	石川県	金沢市
	金沢市立杜の里小学校	石川県	金沢市
	金沢市立不動寺小学校	石川県	金沢市
	金沢市立東浅川小学校	石川県	金沢市
	金沢市立森本小学校	石川県	金沢市
校	金沢市立中村町小学校	石川県	金沢市
	金沢市立新神田小学校	石川県	金沢市
	金沢市立富樫小学校	石川県	金沢市
	金沢市立額小学校	石川県	金沢市
	金沢市立小坂小学校	石川県	金沢市
	金沢市立西南部小学校	石川県	金沢市
	金沢市立大徳小学校	石川県	金沢市
	金沢市立緑小学校	石川県	金沢市
	輪島市立三井小学校	石川県	輪島市
	内灘町立向粟崎小学校	石川県	河北郡
	内灘町立清湖小学校	石川県	河北郡
	内灘町立鶴ヶ丘小学校	石川県	河北郡
	内灘町立大根布小学校	石川県	河北郡
	内灘町立西荒屋小学校	石川県	河北郡
	能美市立粟生小学校	石川県	能美市
	勝山市立荒土小学校	福井県	勝山市
	勝山市立北郷小学校	福井県	勝山市
	勝山市立鹿谷小学校	福井県	勝山市
	勝山市立成器南小学校	福井県	勝山市
	勝山市立成器西小学校	福井県	勝山市
	勝山市立野向小学校	福井県	勝山市
	勝山市立平泉寺小学校	福井県	勝山市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	勝山市立三室小学校	福井県	勝山市
	勝山市立村岡小学校	福井県	勝山市
	坂井市立鳴鹿小学校	福井県	坂井市
	小浜市立内外海小学校	福井県	小浜市
	南アルプス市立芦安小学校	山梨県	南アルプス市
	南アルプス市立櫛形西小学校	山梨県	南アルプス市
	高山村立高山小学校	長野県	上高井郡
	山ノ内町立東小学校	長野県	下高井郡
	岐阜市立島小学校	岐阜県	岐阜市
	養老町立広幡小学校	岐阜県	養老郡
	静岡サレジオ小学校	静岡県	静岡市
	富士市立岩松北小学校	静岡県	富士市
	名古屋市立東築地小学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立愛知小学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立有松小学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立笹島小学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立八熊小学校	愛知県	名古屋市
	愛知教育大学附属名古屋小学校	愛知県	名古屋市
	唱山女学園大学附属小学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立鳴海小学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立内山小学校	愛知県	名古屋市
	名古屋市立千早小学校	愛知県	名古屋市
	あま市立基目寺小学校	愛知県	あま市
	安城市立里町小学校	愛知県	安城市
	一宮市立中島小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立西成小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立浅井北小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立朝日西小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立末広小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立千秋小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立葉栗小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立葉栗北小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立宮西小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立浅野小学校	愛知県	一宮市
	一宮市立丹陽西小学校	愛知県	一宮市
校	犬山市立東小学校	愛知県	犬山市
	岡崎市立梅園小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立常磐南小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立城南小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立男川小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立細川小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立六ツ美中部小学校	愛知県	岡崎市
	岡崎市立形埜小学校	愛知県	岡崎市
	愛知教育大学附属岡崎小学校	愛知県	岡崎市
	江南市立宮田小学校	愛知県	江南市
	刈谷市立富士松南小学校	愛知県	刈谷市
	豊橋市立幸小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立羽根井小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立松山小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立大崎小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立旭小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立芦原小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立東田小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立飯村小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立磯辺小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立岩西小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立植田小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立老津小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立大清水小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立大村小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立小沢小学校	愛知県	豊橋市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	豊橋市立賀茂小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立西郷小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立下条小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立汐田小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立下地小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立新川小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立鷹丘小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立津田小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立天伯小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立中野小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立八町小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立花田小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立二川小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立二川南小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市細谷小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立向山小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立豊小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立牛川小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立嵩山小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立石巻小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立岩田小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立栄小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立杉山小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立高師小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立高根小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立谷川小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立玉川小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立多米小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立つつじが丘小学校	愛知県	豊橋市
校	豊橋市立豊南小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立福岡小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立富士見小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立前芝小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立松葉小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立牟呂小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立吉田方小学校	愛知県	豊橋市
	豊橋市立野依小学校	愛知県	豊橋市
	北名古屋市立師勝小学校	愛知県	北名古屋市
	西尾市立西尾小学校	愛知県	西尾市
	東浦町立緒川小学校	愛知県	知多郡
	東浦町立藤江小学校	愛知県	知多郡
	新城市立作手小学校	愛知県	新城市
	豊田市立土橋小学校	愛知県	豊田市
	長久手市立東小学校	愛知県	長久手市
	半田市立板山小学校	愛知県	半田市
	半田市立有脇小学校	愛知県	半田市
	鈴鹿市立飯野小学校	三重県	鈴鹿市
	鈴鹿市立神戸小学校	三重県	鈴鹿市
	鈴鹿市立牧田小学校	三重県	鈴鹿市
	名張市立蔵持小学校	三重県	名張市
	名張市立名張小学校	三重県	名張市
	名張市立箕曲小学校	三重県	名張市
	名張市立桔梗が丘小学校	三重県	名張市
	名張市立薦原小学校	三重県	名張市
	彦根市立城西小学校	滋賀県	彦根市
	彦根市立城北小学校	滋賀県	松原町
	京都市立上賀茂小学校	京都府	京都市
	京都市立乾隆小学校	京都府	京都市
	京都市立紫竹小学校	京都府	京都市
	京都市立下京涉成小学校	京都府	京都市
	京都市立梅津北小学校	京都府	京都市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	大阪市立御幸森小学校	大阪府	大阪市
	大阪市立関目東小学校	大阪府	大阪市
	大阪市立高殿小学校	大阪府	大阪市
	大阪市立晴明丘小学校	大阪府	大阪市
	豊中市立上野小学校	大阪府	豊中市
	豊中市立新田小学校	大阪府	豊中市
	豊中市立桜井谷小学校	大阪府	豊中市
	豊中市立千成小学校	大阪府	豊中市
	松原市立三宅小学校	大阪府	松原市
	松原市立恵我南小学校	大阪府	松原市
	NPO 法人箕面こどもの森学園	大阪府	箕面市
	河内長野市立美加の台小学校	大阪府	河内長野市
	奈良市立飛鳥小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立帯解小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立済美小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立佐保川小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立椿井小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立鳥見小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立二名小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立佐保小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立鼓阪小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立済美南小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立鶴舞小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立都跡小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立鼓阪北小学校	奈良県	奈良市
	奈良市立東市小学校	奈良県	奈良市
学	奈良市立柳生小学校	奈良県	奈良市
	奈良教育大学附属小学校	奈良県	奈良市
	橿原市立今井小学校	奈良県	橿原市
	橿原市立白檀北小学校	奈良県	橿原市
	和歌山市立広瀬小学校	和歌山県	和歌山市
	田辺市立三栖小学校	和歌山県	田辺市
	橋本市立紀見小学校	和歌山県	橋本市
校	橋本市立高野口小学校	和歌山県	橋本市
	岩美町立岩美南小学校	鳥取県	岩美郡
	岩美町立岩美北小学校	鳥取県	岩美郡
	岩美町立岩美西小学校	鳥取県	岩美郡
	矢掛町立三谷小学校	岡山県	小田郡
	矢掛町立中川小学校	岡山県	小田郡
	矢掛町立矢掛小学校	岡山県	小田郡
	岡山市立第一藤田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立第三藤田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立第二藤田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立蛍明小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立福田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立建部小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立足守小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立竹枝小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立福渡小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立甲浦小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立小串小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立御南小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立津島小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立西小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立宇野小学校	岡山県	岡山市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
小	岡山市立伊島小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立政田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立福島小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立開成小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立南輝小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立三勲小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立浮田小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立旭竜小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立江西小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立城東台小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立高島小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立千種小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立角山小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立平島小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立御休小学校	岡山県	岡山市
	倉敷市立粒江小学校	岡山県	倉敷市
	岡山市立加茂小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立興除小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立庄内小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立曾根小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立東晴小学校	岡山県	岡山市
	岡山市立鯉山小学校	岡山県	岡山市
学	広島大学附属小学校	広島県	広島市
	広島市立幟町小学校	広島県	広島市
	広島市立大林小学校	広島県	広島市
	広島市立畑賀小学校	広島県	広島市
	広島市立戸坂小学校	広島県	広島市
	尾道市立山波小学校	広島県	尾道市
	大竹市立栗谷小学校	広島県	大竹市
	三次市立安田小学校	広島県	三次市
校	海田町立海田東小学校	広島県	安芸郡
	熊野町立熊野第一小学校	広島県	安芸郡
	熊野町立熊野第二小学校	広島県	安芸郡
	熊野町立熊野第三小学校	広島県	安芸郡
	熊野町立熊野第四小学校	広島県	安芸郡
	北広島町立新庄小学校	広島県	山県郡
	東広島市立入野小学校	広島県	東広島市
	福山市立内海小学校	広島県	福山市
	福山市立駅家西小学校	広島県	福山市
	広島大学附属東雲小学校	広島県	広島市
	藍住町立藍住南小学校	徳島県	板野郡
	藍住町立藍住北小学校	徳島県	板野郡
	藍住町立藍住西小学校	徳島県	板野郡
	藍住町立藍住東小学校	徳島県	板野郡
	佐那河内村立佐那河内小学校	徳島県	名東郡
	三豊市立下高瀬小学校	香川県	三豊市
	松山市立新玉小学校	愛媛県	松山市
	新居浜市立浮島小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立大生院小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立金子小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立金栄小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立神郷小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立角野小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立惣開小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立高津小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立中萩小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立新居浜小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立垣生小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立船木小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立多喜浜小学校	愛媛県	新居浜市
	新居浜市立若宮小学校	愛媛県	新居浜市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
高 等 学 校	京都外大西高等学校	京都府	京都市
	京都市立紫野高等学校	京都府	京都市
	京都府立嵯峨野高等学校	京都府	京都市
	大阪府立北淀高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立住吉高等学校	大阪府	大阪市
	明浄学院高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立西淀川高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立市岡高等学校	大阪府	大阪市
	大阪府立今宮高等学校	大阪府	大阪市
	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府	池田市
	大阪府立佐野高等学校	大阪府	泉佐野市
	大阪府立春日丘高等学校	大阪府	茨木市
	大阪府立長野高等学校	大阪府	河内長野市
	大阪府立泉北高等学校	大阪府	堺市
	羽衣学園高等学校	大阪府	高石市
	大阪府立能勢高等学校	大阪府	豊能郡
	大阪府立枚方高等学校	大阪府	枚方市
	大阪府立松原高等学校	大阪府	松原市
	大阪府立北摂つばさ高等学校	大阪府	茨木市
	大阪府立富田林高等学校	大阪府	富田林市
	神戸市立葺合高等学校	兵庫県	神戸市
	兵庫県立三木北高等学校	兵庫県	三木市
	兵庫県立北須磨高等学校	兵庫県	神戸市
	奈良県立法隆寺国際高等学校	奈良県	生駒郡
	和歌山県立星林高等学校	和歌山県	和歌山市
	和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県	東牟婁郡
	松江市立女子高等学校	島根県	松江市
	島根県立島根中央高等学校	島根県	邑智郡
	岡山県立岡山一宮高等学校	岡山県	岡山市
	岡山学芸館高等学校	岡山県	岡山市
	岡山龍谷高等学校	岡山県	笠岡市
	岡山県美作高等学校	岡山県	津山市
	岡山県立真庭高等学校	岡山県	真庭市
	岡山県立林野高等学校	岡山県	美作市
	岡山県立矢掛高等学校	岡山県	小田郡
	岡山県立和気閑谷高等学校	岡山県	和気郡
	広島県立広島国泰寺高等学校	広島県	広島市
	広島県立広島井口高等学校	広島県	広島市
	山陽高等学校	広島県	広島市
	広島県立安古市高等学校	広島県	広島市
	広島県立尾道北高等学校	広島県	尾道市
	広島県立御調高等学校	広島県	尾道市
	広島県立呉三津田高等学校	広島県	呉市
	山陽女学園高等部	広島県	廿日市市
	広島県立福山誠之館高等学校	広島県	福山市
	広陵高等学校	広島県	広島市
	広島県立大門高等学校	広島県	福山市
	広島県立安芸府中高等学校	広島県	安芸郡
	如水館高等学校	広島県	三原市
	広島県立三次高等学校	広島県	三次市
	広島県立賀茂高等学校	広島県	東広島市
	広島県立府中高等学校	広島県	府中市
	山口県立周防大島高等学校	山口県	大島郡
	徳島県立徳島科学技術高等学校	徳島県	徳島市
	香川県立観音寺中央高等学校	香川県	観音寺市
	香川県立高松桜井高等学校	香川県	高松市
	愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県	新居浜市
	愛媛県立新居浜東高等学校	愛媛県	新居浜市
	福岡県立城南高等学校	福岡県	福岡市
	福岡県立香住丘高等学校	福岡県	福岡市
	福岡県立ひびき高等学校	福岡県	北九州市

区分	学 校 名	都道府県	市町村
高 等 学 校	福岡県立武蔵台高等学校	福岡県	筑紫野市
	長崎県立対馬高等学校	長崎県	対馬市
大 学	国立大学法人宮城教育大学	宮城県	仙台市
	玉川大学（教育学部）	東京都	町田市
	国立大学法人愛知教育大学	愛知県	刈谷市
	国立大学法人三重大学	三重県	津市
高 専	国立大学法人奈良教育大学	奈良県	奈良市
高 専	国立石川工業高等専門学校	石川県	河北郡
	千葉県立桜が丘特別支援学校	千葉県	千葉市
	見附市立見附特別支援学校	新潟県	見附市
	愛知県立みあい養護学校	愛知県	岡崎市
	愛知教育大学附属特別支援学校	愛知県	岡崎市
養 護 学 校	愛知県立豊橋聾学校	愛知県	豊橋市
	広島県立西条特別支援学校	広島県	東広島市
	大牟田市立大牟田特別支援学校	福岡県	大牟田市
	釧路市立山花小中学校	北海道	釧路市
	標茶町立中茶安別小中学校	北海道	上川郡
そ の 他	斜里町立ウトロ小中学校	北海道	斜里郡
	聖ウルスラ学院英智小中学校	宮城県	仙台市
	練馬和光保育園	東京都	練馬区
	もみの木保育園太子堂	東京都	世田谷区
	もみの木保育園若葉台	東京都	稲城市
の	もみの木保育園長峰	東京都	稲城市
	足立区興本扇学園	東京都	足立区
	東京賢治シュタイナー学園	東京都	立川市
	横浜シュタイナー学園	神奈川県	横浜市
	粟島浦村立粟島浦小中学校	新潟県	岩船郡
他	愛知インターナショナルスクール	愛知県	名古屋市
	燈影学園（一燈園小学校・中学校・高等学校）	京都府	京都市
	京田辺シュタイナー学校	京都府	京田辺市
	コリア国際学園	大阪府	茨木市
	箕面市立彩都の丘学園	大阪府	箕面市
他	奈良市田原小中学校	奈良県	奈良市
	奈良市立富雄第三小中学校	奈良県	奈良市
	廿日市市立宮島小学校・宮島中学校	広島県	廿日市市
	ナーサリー富田幼児園	徳島県	徳島市

ESD推進のためのユネスコスクール宣言

(ユネスコスクール岡山宣言)

私たちにとってのESD

私と、あなた、学校のみんな、地域みんな、世界のみんなへとつながっていく。
だから、私は、見えないあなたと励まし合い、支え合える存在であるという尊さに気づき、
何か行動したくなる。
教室から校庭へ、校庭から地域へ、地域から私の国へ、私の国からあなたの国へ、
そして世界へ、地球へ、私の世界は広がっていく。
だから、私は、どこかの場所にもかけがえのない宝が息づいていることに気づき、
何か行動したくなる。
今と、過去とのつながり、明日とのつながり、遠い未来とのつながり。
今の私は過去や未来とつながっていく。
だから、私は、この大きな時間の流れのなかで、たいせつな責任を負っていることに気づき、
何か行動したくなる。
(児童の変容を児童の視点から叙述したユネスコスクール教員による「詩」にもとづく)

ESDのビジョンを取り入れることで、子どもたちの学びのなかに、さまざまなつながりが生まれます。他者、世界の多様性、いのちある地球、自然、科学・技術、文化、過去および未来などと自己とのつながりです。こうしたつながりのなかで、学びは深まり、子どもたちの心のなかに生き続け、持続可能な未来を創造する力となります。その力は行動と協働を呼びおこす力です。そして、問い続け学び続ける力です。

日本のユネスコスクールによる「国連ESDの10年」の成果

日本におけるユネスコスクールは、1953年に、ユネスコが世界の学校でその理念を実現する事業を開始した当初から日本の学校が参加して、今にいたります。日本では、学習指導要領や教育振興基本計画などに持続可能な社会の構築やESD推進の観点が盛り込まれています。日本ユネスコ国内委員会「ESDの普及促進のためのユネスコ・スクール活用について（提言）」（2008年2月）によって、ユネスコスクールは、ESD推進の拠点として位置づけられました。ESDのビジョンと、ユネスコスクールの目的に共感した教師と学校を支援する人々や組織によって、ユネスコスクールは飛躍的に仲間を増やし、現在国内807校を数えます。全国のユネスコスクールによって、学校教育におけるESDの裾野は大きくひろがりました。「国連ESDの10年」を通して、ユネスコスクールでのESDには、多くの成果が見られるようになりました。

各ユネスコスクールのESD実践では、平和、環境、生物多様性、エネルギー、人権、国際理解、多文化共生、防災、文化遺産、地域学習などを入り口として、取り組むべき課題を、体験的・探究的に発見し解決していくためのプロジェクトやカリキュラムが開発されました。各教科のなかだけでなく、総合的な学習の時間等を有効に活用しそれらに関連づけながら、ESDは実践されてきました。

地域の特徴を活かしたESD実践を通じて、子どもたちは、地域社会が人と人とが支えあって成り立っていることを深く理解し、地域の良さと抱える課題を知り、未来に伝えるべきこと、あるいは変革すべきことを地域の人々とともに考え、行動に移すことを学んできました。さらに、地域社会が抱える課題と、国やアジア、世界の課題とはつながっており、地理的な隔たり、世代や立場の違いを超えて協働することで持続可能な未来をつくることができるという認識が共有されつつあります。

子どもたちは、地域社会や世界のさまざまな課題を自らの問題ととらえ、協働的に学ぶなかで「生きる力」を育み、未来社会の担い手であるという意識をもつことができました。ESDによる体験を伴う理解と科学的な考察は、批判的な思考力と判断力、コミュニケーション能力を鍛え、自ら、また協働して、持続可能な未来をつくるための行動に役立つことが理解されました。

ESDのビジョンに導かれた教師の意識に変容が生まれました。知識を伝達するばかりではなく子どもとともに学びながら、子ども中心の学びをデザインし、コーディネートする教師の姿勢は子どもたちを変え、子どもたちが変われば学校が、学校が変われば地域が変わるという実例が見られるようになりました。社会に対する無関心、自己肯定感の低さが問題とされる日本の子どもたちの内なる力を発揮させ、自信の獲得につながりました。そして、学校間の交流によって、より深い学びが実現してきました。

さらに、学校と教育委員会、保護者や地域の人々、NGO/NPO、企業、大学、専門機関とのあいだに連携が深まり、ESD実践の質を高めてきました。また、世代を超えて学ぶことの喜びを確認することにつながりました。

2011年3月11日に起こった東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。しかしESDが根づいていた学校や地域では、そのことが被災からの立ち直りに大きく貢献し、国内外のネットワークを通じて被災地に多くのあたたかい支援の手が差しのべられました。地域の再生と創造にむけてESDを基本理念とした創造的な復興にむけた教育が行われつつあります。

日本のユネスコスクール：私たちのコミットメント（誓い）

私たちは、日本の教育を変えていく原動力としてESDをこれからも進めていきます。

- 私たちは、持続可能な未来のために、身近な地域に貢献するとともに、グローバルな視点に立って行動する次世代を育みます。
- 私たちは、平和、環境、気候変動、生物多様性、国際理解、多文化共生、エネルギー、人権、ジェンダー、防災、文化遺産、地域学習、持続可能な生産と消費等、学びの入り口やテーマが何であれその先に地域、国、アジア、世界の平和と持続可能性を見据えて、地域の人々をはじめ多くの人たちと協働しながら、つながりを意識した教育を実現します。
- 私たちは、ESDの本質を理解するとともに、ESDの魅力を広く社会に伝えるため、児童生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容を明確に示します。
- 私たちは、気候変動、生物多様性、防災、持続可能な生産と消費など、国境を越えたグローバルな課題について理解し、解決方法をさぐり、解決に向けてともに取り組んでいく国内外のユネスコスクール、特に近隣のアジア諸国のユネスコスクールとのテーマ学習・協働学習に取り組めます。
- 私たちは、互いに学びあい、活動の質を高めていくために自発的に組織されるユネスコスクール同士の全国ネットワークをつくります。そして、ユネスコスクール間の交流や協働を推進し情報交換・活用の仕組みを充実させます。
- 私たちは「変化の担い手」として子どもと教師を捉え、地域社会における持続可能性の実践者となるように努め、他の学校、社会教育・生涯学習機関、NGO／NPO、自治体など多様な主体とともに、持続可能な地域づくりに貢献します。
- 私たちは、さまざまな主体との対話と連携を通して、「国連ESDの10年」の後継プログラムである「ESDに関するグローバルアクションプログラム（GAP）」の5つの優先行動分野をつないでいきます。
- 私たちは、世界181の国にひろがるネットワークの一員として、ESDに取り組み、持続可能な未来とともに築いていくことを、そしてそのために、さまざまな交流と連携の機会をつくって学びあうことを、日本と世界のユネスコスクールに対して呼びかけます。

学校によるさらなるESD推進：ユネスコスクールからの提案

ESDの推進拠点としてのユネスコスクールの経験、成果と課題にもとづき、私たちのコミットメントをより良く実現するために、また、ESDをユネスコスクール以外の学校へ、地域へと持続的にひろげていくために、ユネスコスクールとすべての学校、その支援者に向けて、以下を提案します。

- 教師や子どもたちの主体的な発意やアイデアを尊重し、創造的な授業づくり、教科横断的で探究的な教育課程づくりによって学校全体でESDをすすめる。
- ESDを通した子どもたちの学びの質や育ちを内発的に評価する方法など、ESDの成果をモニタリング・評価するための方法を検討し、共有する。
- 各学校のESDを持続的に支える政策や制度をつくり、また校長のリーダーシップがESDの特徴をいかした形で発揮できる基盤を整備する。
- 教師や教育関係者が自らの専門性を生かしながらローカル／グローバルな視野で持続可能性についての認識を深めるための研修制度を拡充させていく。
- 地域において、学校を含む多様な主体が持続可能な社会づくりに参加し連携・協働できる仕組みをつくる。

子どもたちはどの子も無限の可能性を秘めています。その可能性を輝かせることができるよう質の高い教育を行っていくことは、世界中すべての教師に共通する願いです。さらに子どもたちを見守る保護者や地域の人々の願いを共有し、平和で持続可能な未来をつくるために、ESDとともに推進していきましょう。

2014年11月8日

ユネスコスクール世界大会-第6回ユネスコスクール全国大会（岡山市）-参加者により採択

ESD大賞

NPO法人日本持続発展教育推進フォーラムでは、ESD（Education For Sustainable Development）の取り組みを実践する学校を奨励する「ESD大賞」を2010年より実施しています。

本事業は、全国の小・中・高等学校から実践的研究事例を募り、ESDの優れた実践を奨励するとともに、その輪を広げ、日本の持続可能な開発のための教育の推進に寄与することを目指し、実施するものです。

第6回ESD大賞 受賞校

文部科学大臣賞
東京都大田区立大森第六中学校

ユネスコスクール最優秀賞
山口県立周防大島高等学校

小学校賞
神奈川県横浜市立永田台小学校

中学校賞
福井県勝山市立勝山北部中学校

高等学校賞
北海道留辺蘂高等学校

審査委員特別賞
東京都多摩市立東愛宕中学校

企業特別賞
＜ネスレ日本ヘルシーキッズ賞＞
埼玉県川口市立芝富士小学校
北海道室蘭市立本室蘭小学校

協力企業一覧（50音順）

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社
株式会社オリエンタルランド
カシオ計算機株式会社
DIC株式会社
ネスレ日本株式会社
株式会社ユニクロ

展示団体一覧（50音順）

特定非営利活動法人 開発教育協会／DEAR
独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局
ジャパンアートマイル実行委員会
日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）
日本ユネスコ協会連盟
北陸ESD推進コンソーシアム
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

第7回ユネスコスクール全国大会
持続可能な開発のための教育（ESD）研究大会
プログラム

発行日：平成27年12月5日

発行：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム

<http://www.jp-esd.org/>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-40

電話 03-3295-7051

FAX 03-3295-7054

E-mail: info@jp-esd.org



**未来をひらくESD
—さらなるつながりと広がり求めて—**

